がんばんべぇ千葉！日本中が応援団！

2019年10月4日（木）

滋賀自治労連ニュース

内部資料

台風15号災害支援ボランティア参加報告

滋賀県大津市梅林
１丁目３番３０号
滋賀自治労連
組織部発行

電話０７７－５２７－５５１１　FAX０７７－５２７－５５２２　E-mail：sigaziti@mx.biwa.ne.jp　ホームページ；http://shiga-jichiroren.com/

甚大な被害もたらした台風15号上陸から4週間

負けてたまるか

【鋸南町役場本庁２階　対策本部のようす】

滋賀自治労連は、9 月 19 日の執行委員会において、甚大な被害と混乱をもたらした台風 15 号の被災地を支援する取り組みの一環として、カンパ・義援金の取り組みを進めるとともに、ボランティアを現地へ派遣することを確認しました。ボランティアの現地での受付が午前 11 時までであったことと、9 月 25 日の定期大会の準備等が重なったこともあり、25 日深夜に滋賀を出発し、26 日から 29 日までの 4 日間の活動となりました。緊急の提案であったことや、場所によっては停電の影響等で宿泊施設の確保が困難なこともあり、参加は県本部波川書記次長 1 名でした。以下、報告します。

国道127号いまだ「ブルーシート街道」

房総半島を南下するにつれ深刻な被害状況をリアルに実感します。鋸南町周辺では、国道 127 号沿いは「ブルーシート街道」と言ってもいいくらい酷い状況です（写真右）。役場本庁 2 階の対策本部から窓の外を見渡せば、一面ブルーシートだらけの景色が広がります。自衛隊も全国各地から応援に入っていますが、全然人が足りません。

役場正面の受付でボランティア参加登録終了後、オリエンテーションを受けてから現場へ向かいます。26 日、滋賀自治労連は、熊谷市から参加した男性 1 人、市川市から参加した女性 2 人とチームを組み、民家でのゴミの搬出・分別作業を 2 件行いました。1 件目の作業中に人間の力ではとても折れない家の柱が出てきたので、一度本部に戻り、チェーンソーと発電機を借りて現場に戻り作業を再開し、依頼された作業を無事に終わらせることができました。

電気復旧へ大変な生活つづく

【このような電気復旧工事が町内いたる所で】

昼食休憩を 30 分とり、午後も同じメンバーで 2 件目の現場へ向かいました。一人暮らしのおばあちゃんのお宅でしたが、濡れた畳は想像以上に重く、芯が萎えてダラーンとたわみ、大人 2 人でも容易には持ち上がりません。はがして軽トラックの荷台の高さまで持ち上げるのも 4 人で端を持ち、一枚一枚の手作業です。濡れた布団や破損したトタン屋根、砕けた瓦なども大量にあり、こちらも 2 台で 2 往復して何とか終了することができました。畳にはカビも生え、虫も湧いていました。移動させるたびに胞子や埃が飛散します。電気も数日前まで不通だったとか。本当に大変な生活を強いられているのに、私たちが帰る際、「ありがとうございます。ありがとうございます。」と、涙で顔をくちゃくちゃにして冷えたペットボトルの水を持ってきてくれました。本当に自分の力ではどうすることもできず、つらい思いでボランティアの到着を待っていたのだと知りました。

特別な資格等なくても大丈夫。必要なのはマンパワーとハート

作業終了後に対策本部に戻ると、事務局の方が頻繁に電話でやりとりをされています。聞けば、「・・・一番早くても土曜日まで対応できません。」「・・・うちとしてできるのはここまでで、それ以上は業者さんと個別に話し合っていただけますか？」等々。私が携わった 2 件は作業完了として処理されましたが、「継続」や「未着手」の案件がまだ山ほどあり、圧倒的に人手が不足しています。対策本部が 2 人で大丈夫と認識していても、現場に行くと、狭路や二階、離れなどもあり、実際には 4 人、6 人と増員が必要な現場も少なくないようです。当初は資格もなく、ブルーシートも張れない者が行っても役に立てるのか不安もありましたが、そんな心配はまったくいりませんでした。必要なのはハートと人数（マンパワー）です。誰一人として無力ではありません。できる支援があります。

【雨水を吸ったタタミは重く、腐敗がすすむ】

水で激重のタタミ、おばあちゃんの涙の笑顔

27、28日は君津市清掃センターでゴミの分別・車両誘導

27 日、滋賀自治労連は君津市職の方と一緒に不燃・粗大ゴミプラットで分別と運搬をお手伝いしました。土、埃、油、汗にまみれてひたすらゴミの分別作業を行いました。現場の現業職員さんは手慣れたようすでゴミを分解・分別します。アイロン台やトレーニングマシーンなどの複合ゴミは、金属部分と非金属部分に分解しなければなりません。住民の方が、次から次へとゴミを持ち込むので、もたついている時間はありません。ガラスや釘も散乱している３K（キツイ、汚い、危険）の仕事です。台風の強風で粉々に割れたガラスや瓦、破損したトタン屋根、折れた木など災害ゴミが目立ちました。

28 日は、東京自治労連、板橋区職労も駆けつけました。滋賀自治労連は、場内の車両誘導を担当。ものすごい台数の車が開場前から並んでいます。こうした市民の方や業者さんの車を誰かが整理・誘導しなければ、工場は回りません。特に一度ゴミを各プラットで下ろした後は再計量が必要です。その車を既に並んでいる列に割り込ませるのが結構大変で、もたついていると直ぐに出入り口付近が車で詰まってしまいます。業務車両を優先しつつも住民の方への気配りと丁寧な声掛けが大切で、多くの市民の方から「ありがとう」の言葉をいただきました。

現業職プロフェッショナルとしての誇り、公務労働だからこそ

トレーニングマシンを分解する職員さん。瞬時の判断で的確に工具を選定し、どんなゴミも手際よく分別していく。

異常な量の災害ゴミが市内で行き場を失っています。通常の人員では対応し切れない量のゴミが連日運ばれてきます。気候変動に伴う今後の災害対策としても、現業職員さんや土木系技術職はじめ、専門職の方々の長年の知識と経験やスキルが最大限に発揮される環境整備、とりわけ正規職員での増員が急務であることを痛感しました。そしてまた、市直営だからこそ出来る、柔軟でハートの通った対応も可能となることを実感しました。本センターは、午前中は 9 時から 11 時半、午後は 13 時から 16 時までが受付対応の時間です。28 日 11 時 40 分頃、男性の方が片手で持てる少量のプラスチックの壊れた屋根を持ち込み、「コレだけなんだよ。ダメ？」と職員さんにお願いしていました。しばらくすると職員さんは、受付処理を行いました。この男性はすごく喜んで、何度も「ありがとう」と言って帰って行きました。こういうハートフルな対応を、一人ひとりの職員さんが行政の専門家として、日々職場の中で実践し、奮闘している姿に触れました。指定管理者制度だったら、なかなかこうは行きません。ピタリと 11 時半や 16 時で線を引き、そこには人情も住民の笑顔もありません。ルールに住民を従わせるのではなく、市民ニーズに寄り添ってルールを基礎にしつつも柔軟に対応する行政を、個々の職員さんが自らの頭とハートで考えて実践していると強く実感しました。まさに民主的自治体労働者論の実践だと感銘を受けました。

鋸南町、南房総市、館山市はいまだ深刻

29 日、滋賀自治労連は再び鋸南町の支援に入いりました。午前 7 時に自治労連千葉県本部や板橋区職労の仲間と合流し、町職員や社協職員と一緒にミーティング。災害本部の組織系統図の総務ニーズ受付のもとに「自治労連」の名が書かれているのは信頼関係の証です。

午前中はカッパを着用して、災害ボランティアセンター事務局の一員として、一般ボランティア参加者や業者さんの駐車場誘導を行いました。雨の中で立ちっぱなしはキツイですが大事な仕事です。

午後は、板橋区職労の方と一般ボランティアの方と 3 人でチームを組み現場へ出動。担当した現場は倒壊したビニールハウス。大量のガラスの破片、アルミの窓枠、金属製とプラスチック製のトタン屋根の塊や破片の除去・運搬に取り掛かりました。狭路のため軽トラックがやっと通れる道を通り、ゴミの仮置き場まで 3 往復。雨がやみ日差しが照りつける中、汗が滲みます。3 時からは、受付対応の任務を依頼されていましたので、14 時 50 分に一旦作業を中断し、継続事案として引き継ぎました。帰り際、家主のお父さんが「ちょっと待ってて！」と言って走り出し、少し待っていると「ありがとう。食べてください。」とソーダアイスを 3 本持って来てくれました。

3 時からは、ボランティアセンター本部正面受付にて、戻って来るボランティアさんの作業終了手続きの受付事務を担当

千葉テレビ報道特集から見えてくる課題

9月28日に千葉テレビが台風15号の被害を特集しました。それによると、9月28日（台風上陸から20日）現在、9日午前5時ごろ千葉市付近に上陸した台風15号は中心気圧960hPa、最大瞬間風速57.5m（千葉市中央区）など各地で観測史上第1位を更新。27日現在で全壊108棟、半壊1338棟、一部損壊19,471棟、停電は最大64万1000件、断水は君津市や南房総市で最大8万9000戸、市原市、君津市、南房総市で男女計3人が熱中症の疑いで死亡。農林水産業への被害は367億6200万円余りで東日本大震災を上回り、統計開始以来最悪。農業施設238億円、農作物99億円、水産業10億円でさらに拡大する恐れがあるとしました。県は当面、大規模・半壊と認定すれば最大300万円を支給する制度を、館山市、南房総市、鋸南町以外にも独自の支援を検討するとし、10月2日現在、鴨川市、君津市、富津市、匝瑳市が新たに「被災者生活再建支援法」の適用を受けることが決まりました。国も支援の対象外だった「一部損壊」も交付金を活用して補助する方針を示していますが、焼け石に水といった印象で圧倒的に人手が不足しています。

また、当初数日での復旧が見込まれていた停電についても、倒木が復旧を妨げていることが明らかとなり、専門家（千葉大学大学院園芸学研究科の小林達明教授）も、「従来の森林学の常識では折れないような樹が折れていた。県内で風速50m以上の風は吹いたことがないので、千葉県の木は体験したことがない。適度に間伐された森林は風害にも強いが、放置され手入れされていない所有者不明の山林も多い。それが第一の要因。第二の要因は溝腐病。この病気に罹った木はスカスカになり強度が著しく低下する。インフラ復旧にここまで支障になるとは想像以上。」と、問題の緊急性に警鐘を鳴らしました。この森林問題は、滋賀県や全国各地にも当てはまる問題です。

鉄柱や標識が折れ、巨木が根こそぎ倒れるなんて、どんな風？

【鋸南町役場本庁周辺民家】

【館山市布良地区】

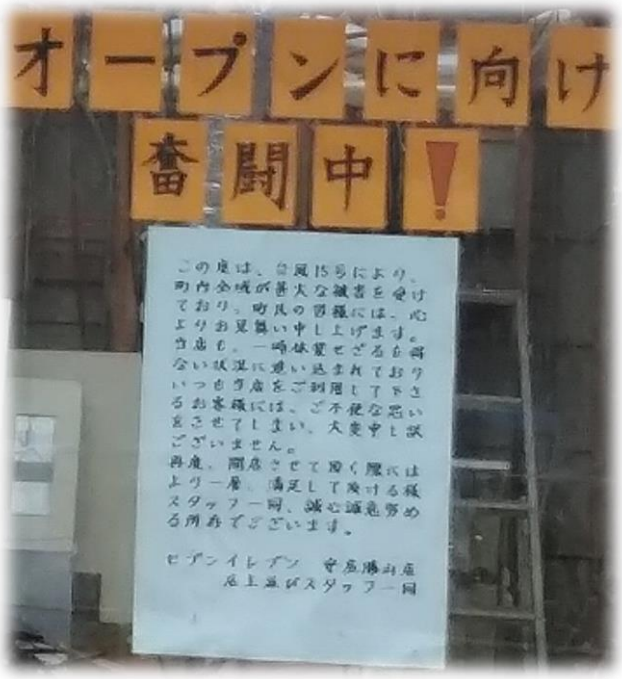
【鴨川市市井神社前】

【道の駅とみうら】

【南房総市根本海岸】

【南房総市千倉】

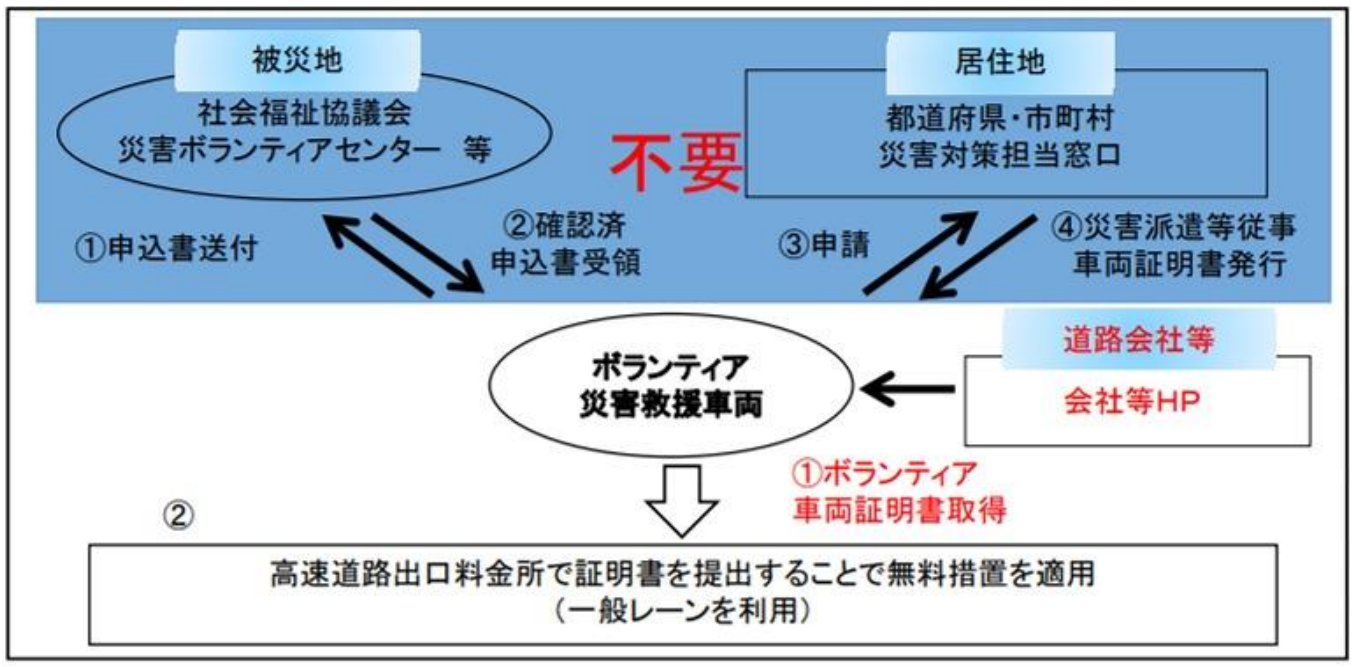
【南房総市大房岬】



【セブンイレブン安房勝山店】

【鋸南町三和仏商　鉄柱折れた？】

災害ボランティア車両の高速道路無料手続の簡素化



詳しくは下記アドレスをクリック↓
https://www.e-nexco.co.jp/road_info/important_info/h31/0701/

（自治労連）
九州北部・中国地方の豪雨災害および台風15号による被災者救援・義援金カンパ

※集まったカンパは、被害の状況に応じて按分され当該自治体等に届けられます。（当面の集約は12月末迄）
（振込先）中央労働金庫　本郷支店
普通　３０１２４２８
名義　日本自治体労働組合総連合災害カンパ

◇◆◇編集後記◆◇◆

9/26～29の４日間、滋賀自治労連として「台風15号災害支援ボランティア活動」に参加してきました。千葉県民歴15年の私にとって千葉県は第二の故郷と言っても過言ではなく、今でも懐かしく大切な場所です。その特別な場所が台風15号でボロボロに引き裂かれ、いてもたってもいられない気持ちで支援行動に参加しました。「いったいどれほどの事ができたのだろうか？」「押しかけ迷惑ではなかっただろうか？」と今、改めて自問自答していますが、自治労連の仲間や見ず知らずの市民の方から、何百個もの「ありがとう」という言葉をいただき、行って良かったと思います。私の方こそ「ありがとう」の気持ちです。また同時に、滋賀自治労連の役員として送り出していただきましたこと、執行部ならびに各単組のみなさまに心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

当初は4日間全日程を、住民の方を支援する最前線に出て、がれきやゴミの撤去・運搬をやりたいと思っていましたが、2日間君津市の清掃センターの業務をお手伝いをさせていただき、かえって多くのことを学ばせていただく貴重な経験ができました。現場の現業職員のプロフェッショナルとしての矜持、社会的役割と責任、そして市民の方の期待、、、。指定管理者制度ではなく、自治体直営だからこそできる市民に寄り添った行政サービスの提供です。

現地に入ると、全国各地から自衛隊員さんが支援に来ています。そのこと自体は歓迎すべきことであり否定するわけではありませんが、自衛隊だけを殊更に称賛するのはおかしいと違和感を覚えました。地元の公務員や派遣の地方公務員、社協職員にも謝意を表明すべきではないでしょうか。汗をかいて働く姿に「お疲れ様でした。ご苦労さまです。ありがとうございます。」と言うのは人として当然だと思います。私も「気を付けて！」「頑張ろうね！」「お疲れ様！」と声をかけ合いました。しかし、ボランティアさんに手を振りましょうという類の記事は、ほとんど見ないような気がします。自衛隊ばかりを礼賛する記事は変だと思います。災害便乗の改憲世論を醸成する思惑でもあるのでしょうか？だとしたらとんでもないことだと思います。そんな中、鋸南町役場の正面玄関入口には、写真のような一般ボランティアさん向けに謝意を表す立て看板があり、本来あるべき姿がここにあると思いほっとしました。

誰にでも心の中に「ふるさと」があると思います。沖縄の方々が辺野古を想う気持ちに重ねれば、その辛さや悲しみ、怒りの大きさは誰にでも容易に想像できます。原因が台風であれ、基地であれ、心の拠り所である「ふるさと」が傷付けられるのは耐えられないことではないでしょうか。安倍政権や森田千葉県知事の対応に千葉の人たちが怒ったり、辺野古新基地建設強行に沖縄の人たちが怒ったりするのは当然だと、改めて思いました。

滋賀自治労連　書記次長　波川尚志